- 知っていると便利な使い方 -

1. ポイントオブジェクトを利用したラベル表示

(1) ラベル主題図利用

『1.ポイントオブジェクトの直接作成』を利用して任意のポイントオブジェクトを作成し, ID や新たに作成したフィールド(変数型テキスト)に文字列を入力する。主題図作成よりラベル主題図作成を利用してラベルを表示する。ラベル位置はポイントオブジェクトの移動で対応可能。



(2) テキストオブジェクト

ラベル表示にラベル主題図を利用すると同一データセット内のラベル書式は1種類となって しまうため、表現力に乏しい。テキストオブジェクトを使用した場合、オブジェクトごとに書 式を設定出来るため、その表現力は強力である。

①ポイントオブジェクトからテキストオブジェクトへの変換。(1)で作成したポイントオブ ジェクトを利用する。データセット/データタイプの変換/属性データをテキストデータセッ トに変換。



②属性データをテキストデータセットに変換ウィンドウで、変換するフィールド(testP内のID)に情報を書き込んでいた)、変換先のテキストデータセットの名称等を決定。OKボタンにより処理開始。

③テキストデータセットの編集。変換したデータセット **TextDT** をマップ表示させ、凡例ウィンドウ内の **TextDT@n_map** を右クリック。編集可能にチェックを入れる。



④各テキストオブジェクトをクリックするとテキストの周りにコントロールポイントが表示 される。各ポイントをドラッグすると文字サイズや回転をコントロールできる。



⑤各テキストオブジェクトをダブルクリックするとコントロールウィンドウが開き,書式等を 詳細に設定することが可能。表示テキストの内容もここで変更する事が出来る。

))/名(№):	MS ゴシック		- 対入、属性及び線	編集設定 □ 下線(U)	
置(A):	左上	•	□ 斜体(<u>I</u>)	□取り消し線(些)	
シトのサイス*(ミ):	54.1	•	□輪郭(上)	✓ 背景透明(<u>I</u>)	
いの高さ(世):	191		□ 影付き(0	□ 固定サイズ(<u>G</u>)	
♪トの幅(盥):	0		文字色(E): ■	▼ 背景色(0): ■▼	
転角度(<u>R</u>):	0.0	•	ቻ7°ቻ7°୬°ェクト(<u>E</u>)	第1番目のサブオブ▼	
スト内容(<u>C</u>):	浜				

⑥テキストオブジェクトの作成。作成したテキストオブジェクトをコピー&貼り付けで複製 し、適当な位置に移動後、⑤の手法でオブジェクトの詳細や表記テキストを変更。

2. ベクトルデータの投影・座標系の変換

GPSデータから作成した GIS データは、緯度経度による位置情報となっている。地形図等が日本平面直角座標系である場合、この状態のままでは重ね合わせることが出来ない。そこで作成した GPS データの座標系変換を行う。

ベクトルデータの投影変更はデータソースの投影情報を変更するため、同一データソースに 含まれるデータセット全て(ラスターデータセットは除く)が変更されてしまう。従って、変 更前のデータセットが必要な場合はデータソースのコピーを忘れないこと。

①データソース gps 右クリックから属性選択。

②属性表示ウィンドウからデータソースの投影タグを選択。

データソースの投影情報を確認可能。 投影系の再設定 ボタンより投影法を変更可能*1。 ③ 投影変換ボタンを押し、投影変換ウィンドウから 股影先の設定 ボタンより 力影法を変更可能*1。



詳細情報(<u>I</u>): 測地基準系	D_JAPAN_2000			
準拠時円体 楕円体長半径 楕円体扁平率 中央子午線	GHS_1980 6378137.000000 0.0033528107 0.000000			
	投影刘春奉服士	°-(C) ┃ 投影系	の再設定(R)	投影変換(T)
	投影情報出	[•] ~(<u>c</u>) 投影系	の再設定(<u>B</u>)	
	投影情報比	°-(<u>C)</u> 投影系	の再設定(<u>R</u>)	投影変換([
000 彩変換 変換方法(道): 和	投影情報知: pridged Molodensky	▶ <u>~(C)</u> 投影系 / (3-para)	の再設定(B)	投影変換(I ?) Eの設定(<u>S</u>)

④投影系の設定ウィンドウから、今回は日本平面直 角座標系第XV系(JGD2000)を選択するた め、投影座標系の『定義済みの座標系』から<u>次に</u>を 押す。



座標移動量(Z): [

変更 차가네

⑤メインカテゴリー『Japan Coordinate Systemes』,引き続いてサブカテゴリーから『Japan Plate Carree JGD2000 Zone XV』と選択する。



⑥座標系設定後, 変更ボタンをおす。この変更処理によってデータソース gps 全てのデータセットの座標系は変更されている。以後ソフトを終了後,再び gps を利用の際は日本平面直角座標系第XV系となっている。緯度経度座標系に戻す場合は投影変換処理を再度施す必要がある。以下は,国土基本図とかさねあわせた例である。



回転角度(Z): : : .

【注意】 投影系の再設定ボタンより投影法変更*1

この方法による投影法の変更は内部に含まれているデータセットの数値情報を変更しない。 たとえば、緯度経度系JGD2000と設定されたデータソース内のX=127.5,Y=2 6.5座標は経度・緯度と解釈されるが、この方法により日本平面直角座標系に変更した場合、 この数値X=127.5,Y=26.5はmと解釈され、全く違う位置情報となってしまう。 この手法は誤ってTOKYOに設定した座標系をJGD2000に強制変更する場合等に利 用できる。

3. ラスターデータセットの投影・座標系の変換

ラスターデータセットの投影・座標系の変更はデータセットごとに行われるため、変換後の データセットを保存するための投影・座標系を設定したデータソースを予め準備しておく。

①変換元になるラスターデータセットを含むデータソースと、変換ラスターデータセットを 保存するためのデータソースを開く。

【例】 J G D 2 0 0 0 緯度・経度系のデータソース **n_map** 内のデータセット **N_okinawa** を日本直角座標系第X V系に変換。従って日本直角座標系第X V系の設定をしたデータソース **n map15** を準備。

②ツール/投影変換/ラスタデータ投影変換



③変換元のデータセットの確認と、変換後データを保存するデータソース及びデータセット 名称の設定を行いOK。

この設定ウィンドウからそれぞれのデータソース投影情報の確認と設定が可能。また、ラス ターデータセットの解像度を指定できる。

SuperMap では緯度・経度系座標の場合,それぞれの度数を平面座標のXYに対応させる投 影法(メルカトル図法?)を使用しているため、日本付近では横方向にのびた形状となってい る。他の GIS ソフトでも緯度・経度系座標はそれぞれの仕様によった投影法となっており、メ ーカーによって異なっている。 このような歪みを含まない投影法としては日本周辺では日本 平面直角座標系が用いられており、広範囲の地形図ではUTMが一般的である。 次の図は緯度・経度系投影法(左側)と日本平面直角座標系(右側)で同一地点を同縮尺で 表示したマップである。左側の緯度・経度系投影法マップが横方向に広がっていることが確認 できる。



4. グリッド線の表示

グリッド線(方眼線)の生成は、メートル単位の方眼線及び緯度・経度線の生成が選択できる。グリッド線を生成したいデータソースを開いた後、ツール/方眼線の生成 より、方眼線の生成ウィンドウでの設定となる。方眼線及び緯度・経度線の選択は同ウィンドウのグリッド タイプ選択ボタンより行う。以下、各グリッドタイプでの方眼線の生成ウィンドウ設定方法について述べる。

4-1. 緯度経度線(グリッドタイプ:「緯経線を生成する」にチェック) ①作成するデータセットの名称,及びデータタイプ(ライン or ポイント)を設定 ②作成するグリッドの緯度間隔,経度間隔入力(度分秒単位) ③グリッド作成範囲を指定。東端西端の経度値,北端南端の緯度。 グリッド作成範囲値を知る方法としては i.マップ表示状態でカーソル位置表示から知ることが可能

ii. グリッド線付加するデータセット右クリックより「属性」選択。東端西端の経度値, 北端南端の緯度が,情報ウィンドウ内の上下左右覧に表示される。



作成されたラインオブジェクトは下記の属性情報を持つ。(左:経度線,縦線 右:緯度線, 横線)



緯度・経度線はデータソースの投影・座標系に関わらず設定することが可能。平面直角座標 系に緯度・経度線を適用した場合、グリッド線は曲線となる。 4-2. 方眼線(グリッドタイプ:「方眼線を生成する」にチェック)

方眼線を生成する場合,その値はm単位となるため,平面直角座標系の投影法データソース にのみ適応可能である。4-1と同様にセルの高さ及び幅を入力後,必要なグリッドの範囲を 与える。グリッドの範囲はデータセットの属性より確認可能。

5. 簡易ジオリファレンス処理

Deskpro(有償版)ではラスターオブジェクトに対してジオリファレンス処理(レジスタ処理)を行い,位置座標を与えるとともに幾何補正を行い,GISデータとして利用可能なデータとすることが可能であるが,Viewerではジオリファレンス処理は行えない。

国土地理院ラスターデータのように地図四隅の位置座標が判明し、かつ東西南北方向に正規 化されたラスターデータは工夫することで、Viewerへ取り込むことが可能である。

5-1. ラスター座標強制入力

国土地理院1/50000地形図ラスターから位置座標を設定したラスターデータセットを 作成する。

①非地球系座標系と設定したデータソースを開く(データソース map50k)。

②データソースにラスターデータ(tiff 画像)をインポート。非地球系座標系のため、左下角を(0,0)とした画像ファイルとして扱われている。(データセット**T392724**) ③インポートした画像データの対角線上の端点の位置座標をメモ。



④読み込んだ地図画像から周辺に空白部分を取り除く。マップ/マップクリップ/矩形からマップクリップツール呼び出し、カーソルを切り出す端点に移動後クリック、矩形マップクリップの一端を設定、カーソル移動で対角線上の一端を指定する。この時、マウスホイールでマップの拡大縮小、キーボード上の矢印キーでマップの移動が行える。





⑤マップクリップ範囲終了(対角点の設定終了後),マップクリップ設定画面が表示される。 クリップ対象データセット及び作成されるデータセットの名称を決定し, OK。

この処理により周辺の空白を取り除かれた新しいラスターデータセットが作成される。(デー タセット**T392724Cut**)

⑥データソースの投影・座標系強制変更。map50k を右クリックより,属性選択。属性ウィンドウ内の「データソース投影」タグ。



⑦ 授影系の再設定ボタンから座標系の設定ウィンドウを開き,地図の投影・座標系である「緯度/経度系座標系 JGD2000」を設定する。

⑧作成したデータセットT392724Cut 右クリック。属性より、T392724Cut の属性情報ウィンドウを開く。

⑨データセット**T392724Cut**の属性情報ウィンドウには このラスターの上端及び下端,左端及び右端の座標値を入 力できるようになっている。現在のところ画像ビットXY 情報のままであるので,ここに③の位置情報を度単位で入 力する。





以上の処理でジオリファレンス処理の終了。位置座標が設定されている。



5-2. tfw ファイルの利用

SuperMapViewer では ArcGIS のラスター画像をインポートする事が可能である。ArcGIS のラスター画像は画像データ(tif) とジオリファレンスファイル(tfw)からなり,tfwファイルは基準点位置座標とピクセル当たりの距離を表す数値よりなるテキストファイルである。従って,このtfwファイルをテキストエディターで作成すれば SuperMapViewer にインポート可能となる。

①地図画像から地図の4端点位置の確認。

②画像処理ソフトにより地図周囲の空白の削除。

③画像処理ソフトの機能を利用して画像サイズ(縦横ピクセル)を調べる。

392724.tifでは横4995,高さ3693となっていた。

④tfw 作成。テキストエディターで作成。

1行目:経度方向(横方向, x)1ピクセル当たりの値。緯度経度の場合は度,平面直角 座標系の場合はm。

 $(1 2 7. 7 5 - 1 2 7. 5) \div 4995 = 0. 00005005005$

2行目:回転角度 0.0000000

3行目:回転角度 0.0000000

4行目:緯度方向(縦方向, y) 1ピクセル当たりの値。緯度経度の場合は度,平面直角 座標系の場合はm。

(26.1666667-26.333333)÷3693=-0.00004513042
5行目:画像左上の位置,x座標 127.5

6 行目: 画像左上の位置, y座標 26.3333333

以上のテキストデータを作成し、ファイル名を 392724.tfw として、392724.tif と同じ場所に保存する。



⑤緯度/経度系座標系 JGD2000 と設定したデーターソースを開く(データソース **map50k**)。

⑥上記画像ファイルをインポート。

6. 日本測地系から世界測地系の変換

6-1. 地形図ラスターデータセットの変換

国土地理院1/25000地形図の世界測地系設定を行う。各測地系の概要は以下の通り。

日本測地系:2000年以前の基準点で作製された地図。国土地理院地形図画像『沖縄』 は日本測地系で作成されている。

世界測地系:2000年以後GPS基準で作製された地図。今後,地図は世界測地系で作 成される。

沖縄付近では日本測地系と世界測地系のズレは、北西方向に約500mとなる(地域によっ てそのズレは異なる)。日本測地系から世界測地系への変換は1/25000地形図レベル(1mm→ 25m)ではほぼ平行移動で変換可能であるので、下記の補正値より補正した位置情報を、ラス ターデータセットの属性情報ウィンドウ、上下左右の位置情報に入力することで、ラスター地 形図の世界測地系設定が行える。設定方法は『5-1.ラスター座標強制入力』と同様。

中縄島周辺	南北方向	+14秒	東西方向	-7秒
大東諸島	南北方向	+3秒	東西方向	+11秒
宮古諸島	南北方向	+13秒	東西方向	-4秒
多良間島	南北方向	+6秒	東西方向	+11秒
石垣島(竹富)	南北方向	+20秒	東西方向	+1秒
西表島	南北方向	+15秒	東西方向	+5秒
手那国島	南北方向	+20秒	東西方向	+2秒
		DAIDUIAI		

参照:http://www.gsi.go.jp/MAP/NEWOLDBL/25000-50000/index25000-50000.html

【注意】国土地理院より世界測地系完全対応の地図画像データが発売されれば、上記平行移動 は不要になる。

6-2. 地形図ラスターデータセットの変換

SuperMap を利用したベクトルデータセットの変換は、3パラメータによる変換となる。3 パラメータによる変換の詳細は国土地理院の『測地成果 2000 導入に伴う公共測量成果座標変

テ^{*}ータセットの削除(<u>D</u>)... テ^{*}ータセットのインホ^{*}ート(1)... Ctrl+I

データセットの検索(Q)... 境界範囲の更新(U)...

空間インデックスの作成(5).

デ*ータセットのエクスホ*ート(E)... Ctrl+E

■ □ ■ 新規データセット(1).

ワークスペース 回 🕞 新規ワークスペース

白 国テータソース

換マニュアル』を参照。3パラメータによる変換は全国一律の変 換方法であるため、地域パラメータは参照されていない。

①日本測地系のデータソースを開き(例 旧座標),右クリックから属性 選択。

②属性ウィンドウから「データソースの投影」タグ選択。
 ③データの確認。測地基準系: D_TOKYO,準拠楕円体: Bessel
 ←日本測地系のデータである。

 股影変換を押す。



④投影変換ウィンドウから投影先の設定を押し、開いた座標系設定ウィンドウで日本平面直角 座標系のJGD2000シリーズXV系を選択する。(今まで何度もやっている操作です。)座標 系を設定し、完了を押すと変更処理を継続するかどうか確認を求められる。



⑤投影変換ウィンドウで、変換方法を指定。3パラメータ法(下図参照)を選択。

換方法(M): Geo	ocentri	c Transl	ation (3-par.)	投影先の設定(<u>S</u>)
投影変換/パラメーター	-			
れ [。] ラメータのフォーマット(E): (┣(D)	€ 度:分:秒(M)	
			比例差(E):	
回転角度(※): 「	; ;		座標移動量(<u>X</u>):	
回転角度(Y): 「	: :	÷	_ 座標移動量(Y):	
回転角度(Z): [: :			

⑥3パラメータ入力。この数値は地球楕円体の変更と基準点移動変のためのパラメータであ

り、全国共通の数値である。

換方法(M): Geo	centrio	c Transla	ation (3-par.) 💌	投影先の設定(S)
最影変換パラメーター				
1°5%-90077-7%))(E): C) 度(D) (€ 度:分:秒(M)	
			比例差(E):	
回転角度(X):	1 1	+		-146.414
回転角度(Y): 「	: :			507.337
回転角度(Z): [: :	•		680.507

⑦パラメータ入力後, 変更ボタンを押す。→変換

変換後、データソースの投影は測地基準系や準拠楕円体の記述が変更されている。

and the second second		地理单位(①): [2~1]	,
詳細情報(1):			
投影法 Trans 中央子午線	verse_Mercator 127.500000		-
中央緯線 第一標準緯線	26.000000 0.000000		
第二標準緯線水平移動距離	0.000000		
垂直移動距離	0.000000		
元19/1 7X-3 方位角	0.000000		
第一点経線 第二点経線	0.000000 0.000000		
地理座標系 測地其進系	GCS_JAPAN_2000 D_JAPAN_2000		
準拠楕円体	GRS_1980		
情円1年長平1年 楕円体扁平率	0.0033528107		
中央子午線	0.000000		-

参考1

世界測地系から日本測地系への変換の場合, 3パラメーターは146.414, -507.337, - 680.507 となる。

参考2

3パラメータによる変換の精度

1/25000レベル表示



1/5000レベル表示



7. 緯度・経度系データソースの面積計算

SuperMap のベクトルデータセットは属性情報中に自動的に周囲長 (SmPerimeter) や面積 (SmArea)の値を記したフィールドが作成されている。緯度経度系で作成されたデータセットの場合,これらの図形計量値は度単位の値となっている。(例 1.5 度×1.5 度では 2.25 度²)



面積計測単位としての度²は非常に利用しにくい単位であるので, m²単位への変換機能がある。

①メニューからデータセット/緯度経度面積 を選択。

②緯度経度面積ウィンドウから計算処理を施すデータセット及びデータセットを選択。さら に計算結果を記録するフィールド名称を決定する。計算結果を記録フィールドはこの処理によ

り自動的に新設追加される。③OK ボタンにより処理開始。

データセ・ハの単築(C) データセ・ハの単築(な) データセ・木器(U):5(() データセ・ハの建築(Q) データセ・ハの建築(Q) データセ・ハの建造(Q) データセ・ハの建造(Q) データセ・ハの建造(Q) データセ・ハの建造(Q) データセ・ハクの支援(Q) ・ 境界範囲の更新(Q) 空間(ノデッカスの作成(Q) データセ・カックスの作成(Q) データセ・カックスの作成(Q) データセ・カックスの作成(Q) 音動・木口>ダンタ理(Q) データセ・ハッジング(B) データセ・ワップング(B) データセ・ワッドング(D) データセ・ワッドング(D)	i規データセット(№)	-
 データセッをまた~(C) データセッを書用との(L) データセック想定(L) データセック認定(L) データセック通知(C) データセック通知(C) データセックの(中本)~(L) Cti+I データセック(アクスの)で成(L) データセック(アクスの)で成(L) ジータシックの(市成(L) S&(アク・ジンスの)市政(L) S&(アク・ジンスの)市政(L) S&(アク・ジンスの)市政(L) S&(アク・ジンスの)市政(L) S&(アク・ジンスの)市政(L) データセック(アク・ジンスの)市政(L) データセック(アク・ジンスの)市政(L) データセック(アク・ジンスの)市政(L) データセック(アク・ジンスの)市政(L) データセック(アク・ジンスの)市政(L) データセック(アク・ジンスの)市政(L) データセック(アク・ジンスの)市政(L) データセック(アク・ジンスの)市政(L) データセック(アク・ジンスの)市政(L) アータセック(アク・ジンスの)市政(L) アータセック(アク・ジンスの)(アク・ジンスの)(アク・ジンスの)(アク・ジンスの)(アク・ジンスの)(アク・ジンスの)(アク・ジンスの)(アク・ジンスの)(アク・ジンスの)(アク・ジンスの)(アク・ジンスの)(アク・ジンスの)(アク・ジンスの)(アク・ジンスの)(アク・ジンスの)(アク・ジンスの)(アク・ジンスの)(P) アータン(P) (P) (P) (P) (P) (P) (P) (P) (P) (P)	ータセットの削野余(口)	5
データセッキ活用にある(、) データセックな差の(Q) データセックな差の(Q) データセックな差の(Q) データセックな差の(Q) データセックの方向(Q) データセックの方向(Q) データセックの方向(Q) データセックの方向(Q) マニアクシスクチャンクシスクトを式(Q) マニ酸インデックスクトを式(Q) マニ酸インデックスクトを式(Q) マニ酸インデックスクトを式(Q) マニ酸インデックスクトを式(Q) マニ酸インデックスのトを式(Q) マニ酸インデックスのトを式(Q) マニ酸インデックスのトを式(Q) マニ酸インデックスのトを式(Q) マニ酸インデックスのトを式(Q) マニ酸インデックスのトを式(Q) マニ酸インデックスのトを式(Q) マニ酸インジングをするのトを式(Q) マニ酸インジングをするのトを大いのデックジンクトのトの・マンジング(B) データセックジークジング・ドの・アンジン(Q) 画像とやジットックパトの・チャン・ワンジン(B)	ראַדיירי(⊆)	Ē
データセナの検索(Q) データセナの追加(Q) 間性テーブルの場合(S) ラスタデータセトの追加(Q) データセナのパホート(L) Ctrl+I データセナのパホート(L) Ctrl+I データセナのパホート(L) 支援制(クテウスの作成(Q) データセナオームトドクデウス(E) 3級(クテウスの作成(Q) データセナオームトドクデウス(E) 3級(クテウスの作成(Q) データセナのグラクスの作成(Q) データセナのグラクスの作成(Q) データセナのグラクスの作成(Q) データセナのグラクスの作成(Q)	ータセットを閉じる(し)	
データセルの追加(公) 第世テーブルの総合(S) ラスタデークセルの追加(Z) データセルの(スポート(L) Ctrl+I データセルの(スポート(L) Ctrl+I データセルの(スポート(L) マータセルの(スポート(L) 支援間(ノデッカスの)作成(L) 記様(ノデッカスの)作成(L) 記様(ノデッカスの)作成(L) 記様(ノデッカスの)作成(L) データセルの(ガッカスの)作成(L) データセルの(ガッカスの)作成(L) データセルの(ガッカスの)作成(L) ごったちゃんの(ガッカスの)に、 データセルの(ガッカスの)に、 ごったちゃんの(ガッカスの)に、 ごったちゃんの(ガッカスの)に、 ごったちゃんの(ガッカスの)に、 ごったちゃんの(ガッカスの)に、 ごったちゃんの(ガッカスの)に、 ごったちゃんの(ガッカスの)に、 ごったちゃんの(ガッカスの)に、 この(ロース)(L) に、 こ、 に、 こ に、 に、 に、 こ に、 こ に、 こ に、 こ に、 こ に、 こ に、 こ に、 こ に、 こ に、 こ に、 こ こ こ に、 こ に、 こ こ に、 こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ	一处小の検索(Q)	
 開生テーフルの結合(2) フスタブーやセルの追加(2) アーやセルの追加(2) アーシセルののボート(1) Cti+1 アーシロハクボート(1) オージリスク(7)の支換(2) マピロインデンカスの作成(2) ジークセルマンクパクスの(作成(4) 3級(72テジスの作成(4) 3級(72テジスの作成(4) 3級(72テジスの作成(4) 3級(72テジスの作成(4) 5ペーシセルの(72)(7)(2) 吉動トボンジ発見(1) デーシセルの(7)(7)(2) 下ーシセンク(7)(5) アーシセンク(7)(5) アーシセンク(7)(5) アーシセンク(7)(5) アーシセンク(7)(7)(5) アーシセンク(7)(7)(2) 国際とラントの(7)(7)(7)(2) 	ータセットの這加(<u>W</u>)	
ラスタテーケセッかの追加(2) デーケセッかの追加(2) デーケセットのクレホート(1) プークタレクホート(1) プークタレクホート(1) プロデータレクション プロデータレクション プロデータレクション プロデータレクション プロデータレクション プロテータレクション 読んアックスの作作成(1) コ酸化ラックスの作成(1) データレクリクンクリア(1) データレクリクンクリアンク(1) データレクリクシンクリアンク(1) プークレクシング・ジャンク・ジャンク・ジャンク・ジャンク・シンク・ジャンク・ジャンク・シンク・シーシー 画像とラットの作成(2)	ア性テーブルの結合(≦)	
 データを小のクボート(1) Ctrl+I データを小クの変換(2) 境界範囲の更新(位) 空間インデッカスの作成(公) データを小オームドインデッカス(下) 3級インデックスの作成(公) 3級インデックスの作成(生) 自動トロンダ処理(1) 育ータセナの切りフッワング(8) データセナのチンパルラ*(公) 画像と与シナの作成(2) 	スタティータセットの這加(乙)	
データメインの変換(2)・・ 境界範囲の更新(位) 空間インデッカスの作成(公) データをホオームドインデッカス(C) 3級インデッカスの作成(ビ) 3級インデッカスの作成(ビ) 自動本ロンダ処理(T) データをオのがリシンフリング(B) データをオのグリンフリング(B) データをオのディブルラブ(C) 画像と与ミナドの作成(C)	~ፇセットのインホ*~ト(I) Ctrl+I	
境界範囲の更新(位) 空間インデッカスの作成(公) データをホオームト・インデッカス(C) 3級インデッカスの作成(仕) 3級インデッカスの削除(C) 自動本電ン処理(工) データをオのリザンフリング(B) データをオのリザンフリング(B) データをオのディンドルデ(公) 画像と与ミナドの作成(2)	ー効イフ*の変換(巴)	٠
空間インデッカスの作成(公) データセットィーあト・インデッカス(E) 3級インデッカスの作成(日) 3級インデッカスの作成(日) 自動トボロン処理(T) データセックリアンプンプ(B) データセットの作力が(Y) 画像と与ミットの作成(Y)	:界範囲の更新(M)	
データを小フィールトイクデックス(E) 3級インテックスの作家(C) 3級インテックスの作家(C) 自動トギロン処理(C) 自動トギロン処理(C) データセックリンクソング(E) データセックリンクソング(E) 画像とラミットの作家(C)	間インデックスの作成(X)	
3級インテックスの作成(生) 3級インテックスの削損金(E) 自動ト本ロン処理(E) データセットのJサンフリング(E) データセットのディンドンプ(2) 画像とラミットの作成(E)	ータセットフィールト・インデックス(E)	
 3級インデックスの角隊を(2) 自動ト本ロン処理(工) データセットのサジンクリング(医) データセットのディンパルブ(V) 画像と"ラット"の作成(Y) 	級インデックスの作成(日)	
自動は本ロン処理(工) データセットのリサンフリング(R) データセットのディンパンプ(W) 画像とつらットの作成(Y)	級インデックスの削除(目)	
データセットのリサンフジング(R) データセットのディンルフ [*] (Y) 画像と ⁽ ラシット [*] の作成(Y)	動ト赤゙ロジ処理(工)	
データセットのディンルフヾ(⊻) ■像ピラシットでの作成(Y)	ータセットのリサンフリング(<u>R</u>)	
画像とうシッドの作成(Y)	∽タセットのディンルブ(⊻)	
	i像ピラミッドの作成(<u>Y</u>)	
画像と"ラミッドの削除(G)	i像と『ラミット"の削除(G)	
カラ−画像合成(<u>○</u>)	→画像合成(<u>0</u>)	
ウィントやにご自加(点)	心トウに追加(<u>本</u>)	
イヘットデータセット属性(<u>ド</u>)	ヾントデータセット腐性(<u>K</u>)	



属性情報の確認



- 8. ランドサットバンドデータの利用
- 9. DEMデータの表示
- 10. SuperMap データのエクスポート